# メカトロニクス京都2012

東日本大震災による未曽有の被害を受けたものの、日本経済は復調の兆しを見せ始めている。一方で、円高や欧州の財政不安が企業の海外展開の足かせになりかねない状況だ。ただ京都の企業は独自の強みやノウハウを生かし、顧客ニーズに合致した高付加価値の技術や製品の開発を強化し、競争を勝ち抜こうとしている。そこで京都のモノづくりをけん引する各産業界の社長に、今後の展望を聞いた。

## 未来展望　経営者3氏に聞く

## モノづくりの都 KYOTOからの復活

### 医療分野を第2の柱に

イシダ　石田 隆英 社長

◁◀◁

―海外事業が順調です。

「2012年3月期の売り上げは米国や欧州で過去最高を達成するなど海外が大きくけん引し、グループ全体で前期比10数%の伸びとなった。今のペースなら、17年3月末に海外売上比率50%という目標を前倒しで達成できそうだ」

―計量包装機器に関連する業界の動向は。

「海外はBRICs(ブラジル・ロシア・インド・中国)地域を中心に食品の消費量が増加している。政府の食料自給率向上策が追い風となり、特にロシアの伸びが著しい。顧客対応のため12年5月に現地に欧州の子会社を通じて駐在員事務所を開設した。日本の食品関連企業は生き残りをかけて海外に進出しており、日本を通さず現地で売り上げが立つなど国境を超えた取引が多くなっている」

―インドネシアとベトナムの駐在員事務所は、相次いで現地法人に格上げしました。

「注力するVISTA(ベトナム・インドネシア・南アフリカ・トルコ・アルゼンチン)地域で順番に直接販売体制を整えてきた。トルコも売り上げが伸びており、直販を考える時期に来ている。アルゼンチンも、ブラジルを拠点とした南米施策として検討に入った」

―グローバルでの生産強化策は。

「インドでノックダウン生産を始めた。内製化率をどれだけ上げられるか試行錯誤しながら生産のスキルを上げ、調達の可能性を探る。物流面も考えながら、生産拠点を決めている。1カ所に生産を集約してメリットを狙う製品もあるが、産業機械はサイズが大きく、顧客の声も聞きながら現地生産を進める」

―ほかの注力分野は。

「医療分野を食品と並ぶ第2の柱にしたい。取引は増えているが、規制などがあり参入障壁が高く、今ひとつ入り切れていない。製品をどこで生かせるのか探るためマーケティングを始めた。M&A(合併・買収)も視野に入れ、パートナーを探している。関連の展示会にも出展していく」

―懸念される電力不足への対応は。

「昨年の夏と同様に工場の休日を土曜日と日曜日から日曜日と月曜日に変更する。製品はすべて環境対応としており、コンピュータースケールの場合で2000年に比べて6割強、10年比で2割弱使用電力を削減した」

### 内需もしっかり"耕す"

片岡製作所　片岡 宏二 社長

◁◀◁

―主力とするレーザー微細加工装置の需要動向はいかがですか。

「主要なユーザーである電機・電子業界向けがテレビ生産の不振などから、全般に厳しい。太陽光発電向けも、主な市場の欧州で財政不安や補助金削減で需要が減少している。ライバルには海外メーカーが多いので、ユーロ安やウォン安、不利な関税により競争が厳しくなっている」

―先行きは。

「1―2年は辛抱のしどころだが、長期的には必ず回復する。実際に、スマートフォン(高機能携帯電話)やタブレット端末(携帯型情報端末)、車載用電子機器の開発では、レーザーによるテスト加工の予約が2カ月先まで埋まっている。従来の機械切削などでは微細加工の限界に突き当たり、レーザーへの転換を図る顧客が増えている」

―太陽光発電向けも活性化するでしょうか。

「日本では7月から太陽光発電の電力買い取り価格の優遇制度が始まる。中国でも電力不足から太陽光発電の潜在需要は大きい。今後、世界規模でメガソーラー(大規模太陽光発電)の設置が増えると、太陽光パネルの増産が必要となり、レーザー加工装置のニーズも高まると予想している」

―そのほかの事業で力を入れているのは。

「欧州でも、日本より後れていた二次電池の生産が本格的に始まりそう。当社は二次電池用充放電検査装置でも、業界トップクラス。欧州の二次電池メーカーも当社の技術に関心を寄せ始め、商談が活発になってきた」

―電力不足や、世界的な景気変動リスクへの取り組みは。

「夏場の生産を一部、秋にシフトする。4年前からは台湾、中国、韓国、イタリアと、相次ぎ販売拠点も整備してきた。どこかの地域の景気が悪化しても、ほかでカバーできるグローバルな事業体制を整えたい」

―日本市場についてはいかがですか。

「為替の影響を受けずにすむのは国内需要だ。このような時こそ、内需もしっかり掘り起こす。新たに研究・開発部門の要員も加えた販売促進チームを2月に立ち上げた。研究・開発要員も顧客先で説明し、技術的なニーズの的確な吸い上げを狙っている」

### 期待超える価値を提供

NKE　中村 道一 社長

◁◀◁

―主力のファクトリー・オートメーション(FA)機器では、どのようなニーズの変化が起きていますか。

「多品種少量生産をする顧客からは、これまでセル生産方式を築く要望が中心だった。しかし、多品種少量生産にも全自動化のニーズが高まっている。そこで当社が長年培ってきたノウハウを生かし、多様な標準機器を組み合わせニーズに合わせる自動化のエンジニアリング技術を提案したい。システムの設計から導入後のメンテナンスまで、総合的に手がける」

―製造業はグローバルな経済情勢の影響を大きく受けています。こうしたリスクへの備えについて聞かせて下さい。

「当社も2012年中に初の海外拠点となる中国工場を開設する準備を進めている。中国でも国内と同様に低コストで迅速な供給体制を整える。確かに、欧州の財政不安による世界経済への影響は、中国にも部分的に現れている。だが、期待を超えるレベルの価値を国内外で常に顧客へもたらすことができれば、強固なビジネスを展開できると考えている」

―関西圏で懸念される電力不足への対策は。

「当社は組み立てが中心で、大きな影響はないとみている。あるとすれば、機械加工などで大きな電力を消費する外注部品の生産だ。そこで停電など不測の事態に備え、外注先での影響の有無を事前に調べる。生産に大きな支障が予想される部品については、事前に在庫を確保してリスクを最小化する。不確定な要素をどれだけ想定できるかにかかっている」

―12年の見通しは。

「東日本大震災の復興事業が本格化する。ハイブリッド車や太陽光発電の需要も伸び、よい方向に向かうのではないか」

―FA機器の技術動向に大きな変化は予想されますか。

「電力消費が大きな圧縮エア方式の駆動から、電動方式へのシフトが進む。しかし、エアには小型で大きな力を出せるメリットがある。そこで当社は、エア方式のパーツハンドリング機器を最適に電子制御して、電力消費を3分の1に減らす省エネ機器を開発する。これらの機器でエア方式の競争力を高め、12年度も業績を伸ばしたい」


Horizon
www.horizon.co.jp

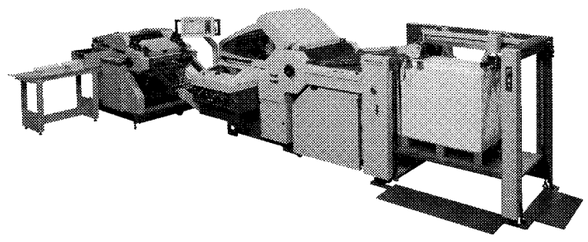
伝えたい想いを未来へとつなぐ

「綴じられた本」から伝わる、温かみや価値、
「想いを未来へとつなぐ」変わらない最良の方法ではないでしょうか。
デジタル技術を最大限に活かし、このアナログ文化を大切にしたい・・・。

製本機械を通して「本」の持つ良さを届けていきます。

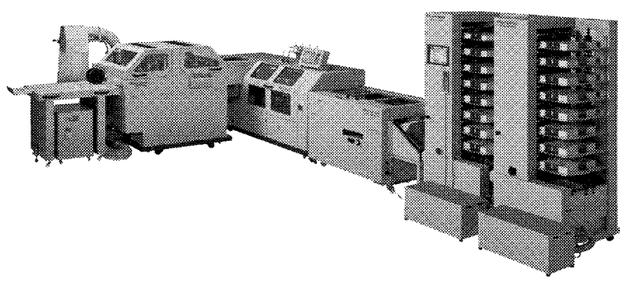
菊全判全自動紙折機+パイル式プレススタッカー
AFC-746F+PSX-56

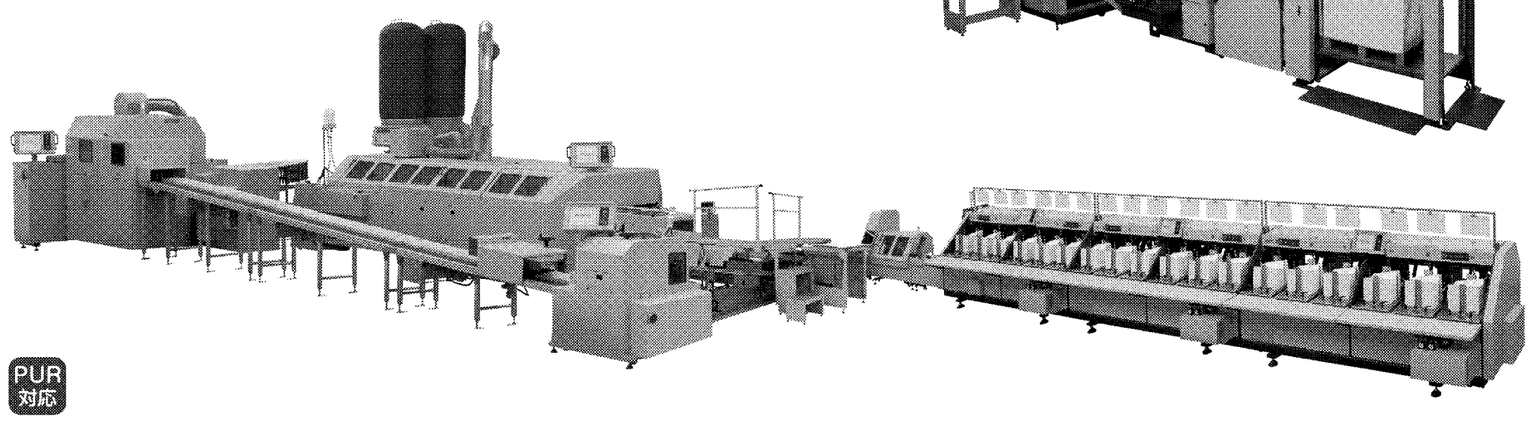
タッチパネルからの直感的な操作でローラーギャップを含む全てのセットが自動で行えます。オプションのパイル式プレススタッカーPSX-56の接続で更に作業性が向上します。



ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム
StitchLiner6000

「ペラ丁合機・筋入れ折り装置・鞍掛け中綴じ機・三方断裁機のシステム化」という新発想のシステム。最高6,000冊/時の処理速度で、中・小ロットの仕事から大ロットの仕事まで、高速かつ効率的に処理できます。





PUR対応

高速無線綴じライン17クランプタイプ
CABS6000 (万力丁合機MG-600+無線綴機SB-17+三方断裁機HT-110)

丁合から三方断裁までのインラインで時間6,000冊の高速生産を実現。高精度で素早いセット替えと、タッチパネルでの直感的でやさしいオペレーションにより、少量生産から多量生産まで幅広いニーズに対応します。

開発・製造
太陽精機株式会社　www.taiyo-seiki.jp
[京都工場] 〒601-8204 京都市南区久世東土川町242 TEL.075(921)9211(代) FAX.075(934)8886
[びわこ工場] 〒520-1501 滋賀県高島市新旭町旭字城ノ下1600 TEL.0740(25)4567(代) FAX.0740(25)8008
ISO 9001 ISO 14001

国内販売
株式会社ホリゾン東テクノ
[本社] 〒132-8562 東京都江戸川区松江5-10-9 TEL.03(3652)7631(代) FAX.03(3652)8083
[東北営業所] 〒984-0002 仙台市若林区卸町東1-7-31 TEL.022(782)2821(代) FAX.022(782)3068
株式会社ホリゾン西コンサル
[本社] 〒601-8206 京都市南区久世大薮町510 TEL.075(933)3060(代) FAX.075(933)4025
[九州営業所] 〒813-0034 福岡市東区多の津4-12-17 TEL.092(626)8111(代) FAX.092(626)8112